

平成 29 年 5 月 30 日

深日漁港干潟「大阪湾生き物一斉調査」の概要

○主 催 大阪湾生き物一斉調査実行委員会

○調査団体 岬町立岬中学校

○観察指導 山西良平先生（西宮市貝類館顧問）

○協 力 CIFER・コア

（一般社団法人 大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア）

○参加者数 25名

5月30日(火) 西宮市貝類館顧問である山西良平先生の指導を受けながら、岬中学校科学クラブ員・顧問の先生(18名)とともに CIFER・コア関係者(7名)も調査に参加しました。

この調査結果は他の地点の結果と合わせて、今後、大阪湾生き物一斉調査の情報公開サイト（大阪湾環境データベース）で公表される予定です。調査結果もぜひご覧ください。

深日漁港の潮の引いた干潟にはウミナヤや稚ガニが多く、ハクセンシオマネキの巣穴もあちこちに見受けられました。音をたてないように辛抱強く待っていると、ハクセンシオマネキが穴から出てきて、白くて大きなハサミを振り上げて潮を招くかのような動きを繰り返すので、ついつい見入ってしまいます。

ハマダイコンの白い花は終わりかけで小さな固い実をつけ、ハマウドは花芽を用意しています。季節は移り変わりながらも干潟とその周辺には生き物があふれていました。



大きなヤドカリ



採取した磯浜生物



海浜植物のハマダイコン